

支那事變處理根本方針

（昭和十三年一月十一日
御前會議決定）

0046

昭和三十二年一月十一日 御前會議ニ於テ決定セラレ
一月十五日第二段ノ措置ヲ執ルコトニ決定セラル
(以下内容別紙第五號(甲)ニ同ジニ付省略ス)

帝國政府聲明

(昭和十三年一月十六日)

帝國政府は南京攻略後尙支那國民政府ノ反省ニ最後ノ機會ヲ與フル爲今日ニ及ベリ、然ルニ國民政府ハ帝國ノ眞意ヲ解セズ漫リニ抗戰ヲ策シ、内民人塗炭ノ苦ミヲ察セズ、外東亞全局ノ和平ヲ顧ミル所ナシ、仍テ帝國政府ハ爾後國民政府ヲ對手トセズ、帝國ト眞ニ提携スルニ足ル新興支那政權ノ成立發展ヲ期待シ、是ト兩國國交ヲ調整シテ更生新支那ノ建設ニ協力セントス、元ヨリ帝國カ支那ノ領土及主權並ニ在支列國ノ權益ヲ尊重スルノ方針ハ毫モカハル所ナシ、今ヤ東亞和平ニ對スル帝國ノ責任愈々重シ

66 政府ハ國民カ此ノ重大ナル任務遂行ノ爲一層ノ發奮ヲ冀望シテ止マズ

0048

北支政務指導要綱

其一、方針

北支政務指導ノ要ハ作戰地後方地域（冀東ヲ含ム以下同シ）ニ於ケル各般ノ政務事項ヲ統合指導シ該地域ヲシテ日滿支提携共榮實現ノ基礎タラシムルニアリ

其二、要領

一、政務指導各般ノ處理ハ嚴ニ敵國占領ノ精神ヨリ脱却シ將來ノ長計ヲ考慮シ地方固有ノ社會組織並習俗ハ成ルヘク之ヲ存置營導スルコトニ努メ且軍隊對住民ノ關係ハ特ニ之ヲ圓滑ニ調整スルモノトス

二、作戰地後方地域ノ政治機關ハ住民ノ自主的發生ニ基クモノトシ其機構運營亦住民ノ積極的參贊ニ據ル

三、冀東政權ハ特ニ其内部ヲ刷新合理化スルモノトス

四、前項地域ノ經濟開發ハ差當リ冀東地區ヲ主トシ冀東政權ヲ内面的ニ指導シテ之ヲ行フ

而シテ經濟開發實施ノ爲ニハ成ルヘク興中公司ヲシテ直接實行

若ハ調整ニ當ラシムルモノトス

五、經濟開發ニ關スル具體的事項ハ別ニ連絡ス

六、現地ノ明朗化ヲ妨害スル不良分子（浮浪人俳日及共產分子等）

五、住民ノ爲文化的諸施設就中保健醫療施設ノ普及ニ關シ所要ノ措
 置ヲ講スルモノトス
 ハ仰レノ國籍人タルヲ問ハス之カ徹底的整理ノ手段ヲ講シ速ニ
 之ヲ實施スルモノトス
 之カ實施ハ軍内諸機關、外務官憲及支那側機關相互ノ協力ニ依
 ル

0050

獨逸政府ヲ仲介トスル日支和平交渉經緯(昭和十三年一月二十日)

一、獨逸側ハ豫テヨリ日支間ニ和平交渉ノ餘地アリヤニ付双方ニ對シ探リヲ入レ居タルカ遂ニ客年十二月月初旬在京獨逸大使ヨリ國民政府ニ於テハ日本側ト購和ノ意向アル趣ヲ以テ日支兩國ノ間ニ話合ノ橋渡シヲナスヘキ旨申出アリタルヲ以テ帝國政府ニ於テハ購和條件ニ付慎重考慮ヲ加ヘタル上客年十二月二十二日在京獨逸大使ニ對シ帝國ノ購和ノ基礎條件トシテ左記四條件ヲ提示シテ其ノ内容ヲ説明シ支那側ニ於テ右ヲ總括的ニ承認シ帝國政府ニ和ヲ乞フノ態度ヲ表示シ來ルニ於テハ帝國政府ニ於テモ日支直接交渉開始ノ用意アリ本年一月五日、六日迄ニハ支那側ヨリ回答ヲ期待スル旨ヲ告ケ國民政府ニ其ノ傳達ヲ求メタリ

記

- 一、支那ハ容共抗日滿政策ヲ放棄シ日滿兩國ノ防共政策ニ協力スルコト
- 二、所要地域ニ非武装地帶ヲ設ケ且該地方ニ特殊ノ機構ヲ設定スルコト
- 三、日滿支三國間ニ密接ナル經濟協定ヲ締結スルコト
- 四、支那ハ帝國ニ對シ所要ノ賠償ヲナスコト
- 五、前記帝國政府ノ購和基礎條件ハ客年十二月二十六日在京獨逸大使ヨリ國民政府當局ニ傳達セラレタルカ豫定期日ヲ過クルモ容

易ニ回答ニ接セス我方ヨリ獨逸側ヲ通シ數次督促セル處本年一月十三日國民政府外交部長ヨリ在支獨逸大使ニ對シ前記帝國政府ノ要求條件ハ範圍廣汎ニ過クルヲ以テ支那側ニ於テ最後的決定ニ達センカ爲更ニ詳細ナル内容ヲ承知シ度キ旨通報アリタリトテ翌一月十四日在京獨逸大使ヨリ右ノ次第我方ニ傳達越セリ然ルニ前記帝國政府購和基礎條件ノ内容ハ客年十二月二十二日以後數次ニ亘リ相當詳シク獨逸側ニ内示説明シアリ國民政府ニ於テモ獨逸側ヲ通シ充分之ヲ承知シ居ルモノト認メラレ旁々前記支那側回答ハ購和ニ付何等誠意ナク單ニ遷延策ヲ講セントスル趣旨ト認メラレタルヲ以テ帝國政府ニ於テハ本月十五日ニ於テ今後ハ國民政府ヲ對手トスル專變解決ニ期待ヲ懸ケス新興支那政權ノ成立發展ヲ助長シ之ト國交ヲ調整シ眞生新支那ノ建設ニ協同スルコトニ期議決定シ十六日右趣旨ヲ中外ニ聲明スルト共ニ在京獨逸大使ニ對シ帝國政府ニ於テハ支那側ノ誠意ナキ態度ニ鑑ミ日支和平交渉ヲ打切ルヘキ旨ヲ通告シ併セテ獨逸側從來ノ好意的斡旋ニ謝意ヲ表スル所アリタリ

三 尚以上ノ經緯ニヨリ爾後帝國政府ハ國民政府ヲ對手トセザルコトトナリタル處有ハ專賣上今後ハ日支兩國間ノ問題ニ就テハ一切同政府ヲ對手トスル交渉ヲナサス帝國ハ全然帝國獨自ノ立場ニ於テ專斷ニ對處セントスルノ趣旨ニシテ所謂國交ノ斷絶若ハ

國民政府ノ否認トモ其ノ趣ヲ異ニスル事實上ノ關係ニ屬スル次
 第ナルカ一別紙第二號參照ニ右帝國ノ態度決定ニ伴フ在本邦支
 那側外交及領事機關竝在留華僑ノ取扱等ニ付テハ既ニ別紙第
 一號ノ通之カ處理方針決定ノ上内務大臣宛通報濟ニ付右ニヨリ
 善處セラレシコトヲ希望ス

0053

別紙第一號

在本邦支那外交機關及華僑處理方針

一 在本邦支那外交機關

外務省ヨリ情況ヲ見テ在本邦支那大使以下ノ外交官及領事館員

全部ノ本邦引揚ヲ勸告ス

但シ其ノ場合ト雖モ引揚後ハ外交官及領事官ノ特權ヲ認メ其ノ身体財産ニ付テハ

充分ノ保護ヲナスモノトス

(四) 大使館及領事館ノ建物ハ支那新政權ヲ帝國政府ニ於テ承認シ

右政權ニ於テ之ヲ接收スル迄ハ我方官憲ニ於テ立入ルコトナ

ク之ヲ保護スルモノトス

(五) 我方引揚ノ勸告ニ拘ラス引揚ヲ實行セサル場合ニ於テモ之ヲ

保護スルコト從前ノ通トシ大使館及領事館ニハ帝國官憲ニ於

テ無斷侵入シ若シクハ館員ヲ逮捕スルカ如キコトナシ

但シ衣食住以外ノ問題即チ公用ニテ帝國官憲ト接觸スルコト

ヲ謝絶ス

(六) 帝國カ新政權ヲ承認シタル場合ニ於テハ南京政府ノ任命ヤル

外交官及領事官ヲ一切退去セシムルモノトス

(七) 朝鮮其ノ他ニ於テ支那新政權ノ領事官タル建前ヲ執ルモノニ

對シテハ敢テ之ヲ干涉セサルモ帝國カ右新政權ヲ承認スル迄

ニ
 華僑ハ之ヲ領事官トシテ取扱ハサルモノトス
 (イ) 殘留華僑ニ對シテハ充分之ヲ保護ス
 (ロ) 華僑ノ新政權ヘノ參加問題ニ關シテハ帝國官憲ニ於テ之ニ
 與ヤサルモノトス

0055

1. 國交斷絶又ハ外交關係ノ斷絶ト必スシモ同一視シ得サル理
由右理由ノ主タルモノ左ノ如シ。

(イ) 南京政府ヲ無視セントスル意思 國交斷絶又ハ外交關係ノ

斷絶ハ相手國政府ノ資格ノ承認ヲ前提トスルコト勿論ニシ

テ例ヘハ開戦ニ依ル國交斷絶ノ場合ニ於テモ相手國政府ノ

資格ヲ云々スルコトハ無之ヲ常トスルニ反シ今次聲明ハ南

京政府ヲ對等ノ相手方ト認メサルノ意思即チ事實上ノ否認

ノ意思ヲ基調トスルモノナル點ニ於テ必スシモ通常ノ國交

斷絶又ハ外交關係ノ斷絶ト同一視シ得サルヘキナリ。

(ロ) 法律上ノ效果 國交斷絶又ハ外交關係ノ斷絶ノ場合通常其

ノ當然ノ法律上ノ效果トシテ外交使節ノ召還外國使節ノ退

去要求等ノ問題ヲ生スルニ反シ今次ノ場合ハ南京政府ヲ相

手トセサル意思ニ基キ使節ノ召還等ヲ先ツ行ヒ其ノ結果ト

シテ事實上國交斷絶又ハ外交關係ノ斷絶ノ事態ヲ盛スルモ

ノナルコトナリ。

(ハ) 形式上ノ相違 前述ノ事情ノ結果使節ノ召還其ノ他ノ形式

モ通常ノ國交斷絶又ハ外交關係ノ斷絶ノ場合ト同一ナラザ

ルモノナリ。之ヲ例示スレハ(イ)駐支特命大使ハ之ヲ召還ス

ルモ代理大使以下ノ館員及領事官ヲ召還シ(ロ)在京支那大使

(館員ヲ含ム)ニ退去ヲ要求セス其ノ自發的退去ヲ勸告シ

2、
 保(右勸告ニ從ハス退去ヲ肯セサル場合ニモ之ニ從前通ノ
 護ヲ與ヘ(領事官ニ付テモ同様ノ待遇ヲ與フルコトノ諸
 點ノ如キハ之ナリ。
 大體前述ノ如キ諸點ニ付キ今次ノ聲明ハ國交斷絶又ハ外交
 關係ノ斷絶ト必スシモ同一視シ得サルモノアルモ兩國間ノ紛
 争ニ基キ兩國使節ノ召還及退去、之ニ伴ヒ外交上ノ關係ノ斷
 絶セラルル事態ヲ生スルモノナルヲ以テ事實上國交斷絶又ハ
 外交關係ノ斷絶ニ近似スルモノト言フコトヲ得ヘシ。

0058

北支及中支政權關係調整要領

昭和十三年四月十六日
閣議決定

第一 方針

一 地方政權ヲシテ之ヲ成立セシメ中華民國臨時政府
ヲ中央政府トシテ成ルヘク速カニ之ニ合併統一セシム

第二 要領

一 中支新政權ハ其成立宣言ニ所要ノ修正(北支及中支兩政權當時
者ノ協議セルモノニ據ル)ヲ行ヒ之ヲ成立セシム

二 中支新政權ハ成ルヘク速カニ之ヲ中華民國臨時政府ニ合併統一
セシム

是方爲中支新政權機構組織ハ前項ノ合併統一ニ支障ヲ來サザル
豫具現セシメ又中支ニ於ケル海關、統稅局、鹽務局(共ニ主要

人事ヲ含ム)等ニ對スル措置ハ合併前ニ於テモ地方的情勢ヲ考

慮シ上中華民國臨時政府ノ統制ノ下ニ之ヲ行ハシム

三 兩政權合併ノ爲速カニ双方ノ支那側代表ヲ集メ協議會ヲ開カシ

四 車爭外交財政金融經濟交通通信郵務文化及恩德對策等ニ關シテ

ハ北支中支間ニ矛盾ナカラシムル豫指導ス

一、北支及中支政權關係調整總領ニ關スル諒解事項
 第一、方針中ニ所謂中華民國臨時政府ヲ中央政府トシテ
 鄂ニ於ケル各地政權指導上ノ原則トシテ規定セルモノニシテ
 國力之ヲ支那ノ中央政府トシテ承認スル問題ニ關シテハ別個
 考慮ニ依リ決定スヘキモノトス
 二、第二、要領ノニ前段北支臨時政府ニ合併統一ノ場合ニ於ケル首都
 ノ選定ハ專ラ支那側ノ考慮ニ委スルモノトス
 三、中支ノ通貨及金融ニ付テハ北支ト統一的ニ處置スヘキコトヲ
 本方針トスルモ之ヲ直テニ實行スルコトナク中支金融ノ複雜性
 ニ顧ミ今後充分ニ實情ヲ見究メタル上適當ノ時期ニ於テ行フモ
 ノトス
 從ツテ例ヘハ中國聯合準備銀行券ヲ中支ニ流通セシムヘキヤ或
 ハ先以テ中文ニ於ケル通貨ヲ整理シ然ル後北支及中支ノ通貨政
 策ノ調整ヲ圖ルヤ等ノ問題ハ今後充分考究ノ上之ヲ決定スルモ
 ノトス

0060

聯合委員會樹立要綱

昭和十三年九月九日
五相會議決定

第一、方針

昭和十三年七月十五日五相會議決定支那新中央政府樹立指導方針
ニ備據シ成ルヘク速ニ聯合委員會ヲ樹立ス

第二、聯合委員會樹立要綱

一、聯合委員會ノ樹立ハ主トシテ支那側ヲ行ハシムルモ帝國之
ヲ内面的ニ斡旋ス

聯合委員會樹立指導ニ關スル現地案決定トハ中央ノ認可ヲ受ケ
タル後支那側ヲ斡旋スルモノトス

二、聯合委員會樹立指導ニ關スル帝國ノ具体案決定トハ北支及中支
政務指導機關斡旋ノ下ニ大連ニ準備委員會ヲ開催セシメ聯合委
員會樹立ニ關スル諸般ノ準備ヲ行ハシム

三、準備委員會ノ準備ニ基キ北京ニ聯合委員會ヲ開催セシム

聯合委員會ノ樹立ニ關シ支那側斡旋ノ基準概ネ左ノ如シ

一、聯合委員會ハ臨時政府及維新政府ノ政務ニ關スル共通事項ヲ統
制シ且新中央政府ノ成立ヲ容易ナラシム

二、聯合委員會ノ組織概ネ左ノ如シ

(一) 聯合委員會ハ總當リ北京ニ置ク
(二) 聯合委員會ニ委員六名ヲ置キ臨時及維新兩政府ヨリ各三名ヲ

0061

- 出之内各一名ヲ常任委員トシテ聯合委員會ニ當置ス
- 本會ニ蒙羅委員會參加ノ場合ハ同會派遣ノ委員二名ヲ増加ス
- (三) 委員中ヨリ主席委員ヲ選出ス
- (四) 主席委員及常任委員ヲ以テ常任委員會トナス
- (五) 聯合委員會ニ事務局ヲ設ケ事務總長(視格)一名、局長若干名ヲ置ク
- (六) 主席委員ハ委員會ヲ執轄シ且會務ヲ處理ス
- (七) 委員會ハ主席委員及各政府ノ必受ト認ムルトキ之ヲ提議シ隨時開會ス
- (八) 委員會閉會中ハ輕易ナル事項ニ關シ常任委員會ニ於テ委員會ノ業務ヲ代行ス
- (九) 委員會及常任委員會ノ議事ハ主席委員全國ノ贊成ヲ得ルニアラレハ議決スルコトヲ得ス
- (十) 事務總長ハ主席委員ノ命ヲ受ケ事務局ヲ設置シ執轄シテ聯合委員會ニ關スル事務ヲ處理ス
- (十一) 聯合委員會ニ當スル經費ハ各政府ニ於テ之ヲ分擔ス
- (十二) 聯合委員會ノ權限右ノ如シ
 - (一) 委員會ハ臨時維新兩政府ノ交通、通信、郵務、金融、海關、稅務、鹽務、文教及思想政策等ノ為メニ關係スル事項ニ關シテ協議ヲ行フモノトス

0062

(二) 聯合委員會ニ於テ議決スル事項ハ其性質ニ應シ聯合委員會若クハ各政府ニ於テ之ヲ執行スルモノトス各政府ニ於テ執行セシムル事項ハ之ヲ聯合委員會ニ報告スルモノトス

第四、聯合委員會指導要領

一 北支及中支政務指導機關ハ對支特別委員會ト密接ニ連繫シ聯合委員會ヲ指導ス

之カ爲右政務指導機關主任者ヲ以テ隨時連絡會議ヲ開催ス

二 聯合委員會及同事務局ノ事務指導ノ幹事役ハ北支政務指導機關之ヲ擔任スルモノトス

三 聯合委員會及臨時維新兩政府ハ聯合委員會ノ開催、議案ノ提出及其議決ノ執行等ニ方リテハ豫メ其他政務指導機關ノ諒解ヲ得

四 聯合委員會及同事務局ノ指導ニ關スル重要事項ハ豫メ中央ノ認可ヲ受クルモノトス

0063

日支新關係調整方針ニ付御前會議ニ關スル件

昭和十三年十一月二十八日
五相會議決定

今次專使帰朝ノ根本方針ニ付キマシテハ一月十一日ノ御前會議ニ於テ決定セラレ且其後ノ情勢推移ニ伴フ措置ニ付キマシテハ其都度内奏致シマシタ所デ御座イマスガ此際日支新關係調整ノ準據ヲ定ムル必要ガ御座イマスヲ茲ニ案ウ具シ御決定ヲ御願ヒスル次第デ御座イマス

0064

日支新關係調整方針

昭和十三年十一月三十日
御前會議決定

日滿支三國ハ東亞ニ於ケル新秩序建設ノ理想ノ下ニ相互ニ善隣トシテ結合シ東洋平和ノ樞軸タルコトヲ共同ノ目標ト爲ス之カ爲

基礎タルヘキ事項左ノ如シ

一 互恵ヲ基調トスル日滿支一般提携就中善隣友好、防共共同防衛

二 經濟提携原則ノ設定

三 北支及蒙疆ニ於ケル國防上並經濟上（特ニ資源ノ開發利用）日

支強度綜合地帶ノ設定

蒙疆地方ハ前項ノ外特ニ防共ノ爲軍事上並政治上特殊地位ノ

設定

揚子江下流地域ニ於ケル經濟上日支強度綜合地帶ノ設定

中南支沿岸特定島嶼ニ於ケル特殊地位ノ設定

別紙之カ具體的事項ニ關シテハ別紙要項ニ準據ス

日支新關係調整要項

日滿支三國ハ相互善隣友好ノ原則ニ關スル事項

平和ヲ確保シ善隣友好ノ實質ヲ尊重シ渾然相提携シテ東洋ノ

進ノ手段ヲ講スルコトヲ實行スルヲ專タル爲各般ニ亘リ互助連環友好促

一 支那ハ滿洲帝國ヲ承継シ日本及滿洲ハ支那ノ領土及主權ヲ尊重

- シ日滿支三國ハ新國交ヲ修復ス
- ニ日滿支三國ハ政治、外交、教育、宣傳、交易等諸般ニ互リ相互ニ好宜ヲ破壊スルカ如キ措置及原因ヲ徹廢シ且將來ニ互リ之ヲ禁絶ス
- 三 日滿支三國ハ相互提携ヲ基調トスル外交ヲ行ヒ之ニ反スルカ如キ一切ノ措置ヲ第三國トノ關係ニ於テ執ラサルモノトス
- 四 日滿支三國ハ文化ノ融合、創造及發展ニ協力ス
- 五 新支那ノ政治形態ハ分治合作主義ニ則リ施策ス
 蒙疆ハ高度ノ防共自治區域トス
 上海、青島、廈門ハ各々既定方針ニ基ク特別行政區域トス
- 六 日本ハ新中央政府ニ少數ノ顧問ヲ派遣シ新建設ニ協力ス特ニ強度結合地帯其他特定ノ地域ニ在リテハ所要ノ機關ニ顧問ヲ配置ス
- 七 日滿支善隣關係ノ具現ニ伴ヒ日本ハ漸次租界、治外法權等ノ返還ヲ考慮ス
- 第二 共同防衛ノ原則ニ關スル事項
- 日滿支三國ハ協同シテ防共ニ當ルト共ニ共通ノ治安安寧ノ維持ニ關シ協力スルコト
- 一 日滿支三國ハ各々其領域内ニ於ケル共產分子及組織ヲ排除スルト共ニ防共ニ關スル情報宣傳等ニ關シ提携協力ス

0066

- 一 日支協同シテ防共ヲ實行ス
 之カ爲日本ハ所要ノ軍隊ヲ北支及蒙疆ノ要地ニ駐屯ス
- 二 別ニ日支防共軍事同盟ヲ締結ス
- 三 第二項以外ノ日本軍隊ハ全般竝局地ノ情勢ニ即應シ成ルヘク早期ニ之ヲ撤收ス
- 但保障ノ爲北支及南京、上海、杭州三角地帯ニ於ケルモノハ治安ノ確立スル迄之ヲ駐屯セシム
- 共通ノ治安安寧維持ノタメ揚子江沿岸特定ノ地點及南支沿岸特定ノ島嶼及之ニ關聯スル地點ニ若干ノ艦船部隊ヲ駐屯ス尙揚子江及支那沿岸ニ於ケル艦船ノ航泊ハ自由トス
- 支那ハ前項治安協力ノタメノ日本ノ駐屯ニ對シ財政的協力ノ義務ヲ負フ
- 六 日本ハ概ネ駐兵地域ニ存在スル鐵道、航空、通信竝主要港灣水路ニ對シ軍事上ノ要求權及監督權ヲ保留ス
- 七 支那ハ警察隊及軍隊ヲ改善整理スルト共ニ之カ日本軍駐屯地域ノ配置竝軍事施設ハ當分治安及國防上必要ノ最少限トス
- 等ニ依リ協カス

0067

第三 經濟提携ノ原則ニ關スル事項

- 一 日滿支三國ハ互助遠環及共同防衛ノ實ヲ舉ケルタメ産業經濟等ニ關シ長短相補有無相通ノ趣旨ニ基キ共同互惠ヲ旨トスルコト
- 二 日滿支三國ハ資源ノ開發、關稅、交易、航空、交通、通信、氣象、測量等ニ關シ前記主旨竝以下各項ノ要旨ヲ具現スル如ク所
要ノ協定ヲ締結ス
- 三 資源ノ開發利益ニ關シテハ北支蒙疆ニ於テ日滿ノ不足資源賦中埋藏資源ヲ求ムルヲ以テ施策ノ重點トシ支那ハ共同防衛並經濟結合ノ見地ヨリ之ニ特別ノ便宜ヲ供與シ其他ノ地域ニ於テモ特定資源ノ開發ニ關シ經濟的結合ノ見地ヨリ必要ナル便益ヲ供與ス
- 四 一般産業ニ就テハ努メテ支那側ノ專業ヲ尊重旨日本ハ之ニ必要ナル援助ヲ與フ
- 五 農業ニ關シテハ之方改良ヲ援助シ支那民生ノ安定ニ資スルト共ニ日本ノ所要原料資源ノ培養ヲ圖ル
- 六 支那ノ財政經濟政策ノ確立ニ關シ日本ハ所要ノ援助ヲナス
- 七 交易ニ關シテハ妥當ナル關稅並海關制度ヲ採用シ日滿支間ノ一般通商ヲ振興スルト共ニ日滿支間ノ物資需給ヲ便宜且合理的ナラシム
- 八 支那ニ於ケル交通、通信、氣象並測量ノ發達ニ關シテハ日本ハ

0068

所要ノ援助乃至協力ヲ與フ

全支ニ於ケル航空ノ發達、北支ニ於ケル鐵道（龍海線ヲ含ム）、
日支間及支瀋沿岸ニ於ケル主要海運、楊子江ニ於ケル水運並北支
及楊子江下流ニ於ケル通信ハ日支交通協力ノ重點トス
日支協力ニ依リ新上海ヲ建設ス

附

一、支那ハ事變勃發以來支那ニ於テ日本國臣民ノ蒙リタル權利利益
ノ損害ヲ補償ス

ニ、第三國ノ支那ニ於ケル經濟活動乃至權益カ日滿支經濟提攜強化
ノ爲自然ニ制限セララルハ當然ナルモ右強化ハ主トシテ國防及
國家存立ノ必要ニ立脚セル範圍ノモノタルヘク右目的ノ範圍ヲ
超エテ第三國ノ活動乃至權益ヲ不當ニ排除制限セントスルモノ
ニ非ス

0069

政府 近衛内閣總理大臣談 昭和十三年十二月二十二日
 國民政府 本年再度ノ聲明ニ於テ明カニシタル如ク、終始ニ貫テ抗
 具眼ノ士ト相携テ東亞新秩序ヲ建設ニ向ツテ邁進セリトスルモ
 ノデアル。今支那各地ニ於テハ更生ノ勢澎湃トシテ起リ、建設
 ノ氣運愈々高マサルヲ感得セシムルモ、ガア。是ニ於テ政府ハ
 更生新支那トシテ關係ヲ調整スヘキ根本方針ヲ中外ニ闡明シ、以テ
 帝國ノ眞意徹底ヲ期スルモ、デアル。日滿支三國ハ東亞新秩序ノ建設ヲ共同ノ目的トシテ結合シ、相互
 ニ善隣友好ノ共同防共ノ經濟提携ノ實ヲ舉ゲシムルモ、デアル
 之ガ爲メ、支那ハ先ヅ何ヨリ舊來ノ偏狹ナル觀念ヲ清算シテ抗
 日ノ愚ト滿洲國ニ對スル拘泥ノ情トヲ一擲スルヨリ、ガ必要デア
 即チ日本ハ支那ガ進シテ滿洲國ト完全ナル國交ヲ修メシコトヲ率
 直ニ要望スルモ、デアル。次ニ東亞ノ天地ニハ、口ニシテハ勢力ヲ存在ヲ許スベカラザ
 ルガ故ニ、日本ハ日獨伊防共協定ノ精神ニ則リ、日支防共協定ノ
 締結ヲ以テ日支國交調整上喫緊ノ要件トスルモ、デア。而シテ
 支那ニ現存スル實情ニ鑑ミ、コノ防共ノ目的ニ對スル充分ナル保
 障ヲ舉グル爲メハ、同協定繼續期間中、特定地點ニ日本軍ノ防共
 駐屯ヲ認ムルコト及ビ内蒙地方ヲ特殊防共地域トスベキコトヲ要

0070

求スルヲ非アル。日本ハ何等支那ニ於テ經濟的獨占ヲ行ハ
 日支經濟關係ノ歸テ。又新シキ東亞ノ理解シテ即應シテ行動
 非シ。又新シキ東亞ノ理解シテ即應シテ行動
 第三國ノ利益ヲ制限スル方如キ。支那ニ求
 非シ。唯飽ク迄日支ヲ提携シ合作トシテ實效ヲ求
 支那ノ國臣民ハ支那内地ニ於ケル居住營業ノ自由ヲ容認シテ日
 支兩國ノ經濟的利益ヲ促進シ。且ツ日支間ノ歷史的經濟的關
 係ニ鑑ミ。特ニ北支及内蒙地域ニ於テ。日支間ノ資源ノ開發利用上。
 日本ニ對シ積極的ノ便宜ヲ與フル由クヲ要求スルモデアル。
 日本ハ支那ニ求ムルモノノ大綱以上ノ如キモデアル。日本ガ
 敢テ大軍ヲ動かセル眞意。徹ニスルナラバ。日本ハ支那ニ求ムルモ
 支那ノ區々タル領土ニ非シ。又戰費ノ賠償。以テ非ザルヨトハ明カデア
 日本ハ實ニ支那ガ新秩序建設ノ分擔者トシテ。職能ヲ實行スルニ
 必要ナル最少限度ノ保障ヲ要求セシトスルモデアル。日本ハ支
 那ノ主權ヲ尊重スルハ固ヨリ。進ンデ支那ノ獨立完成ヲ爲シ必要
 トスル治外法權ヲ撤廢シ且ツ租界ノ返還ニ對シテ積極的ナル考慮
 ヲ拂フニ吝サザルモノデアアル。

0071

中支政務指導方案

(本案ハ新政權樹立當
初若干期間ニ及フ)

(昭、十三、三、二十七 一應ノ確定案)

第一方 針

- 一 高度ノ聯日政權ヲ樹立セシメ漸次歐米依存ヨリ脱却シ日本ニ親倚スル支那ノ一地域タル基礎ヲ確立セシム
- 二 右政權ノ指導ハ其ノ發育ニ從ヒ將來北支政權ト圓滿相投合シ得ル如クシテ大綱ニ關スル邦人願問ノ内面指導ニ止メ日系官吏等ヲ配シ行政ノ細部ニ巨ル指導干渉ヲ行ハサルコトヲ方針トス
- 三 蔣政權ノ潰滅ヲ計ルト共ニ皇軍占領地帯ニ於テ至短期間ニ排共滅黨ノ實現ヲ期シ其ノ餘勢ヲ速ニ隣接地域ニ擴大ス
- 四 政務ノ指導ハ最高政治機構就中立法部門竝ニ實行機關タル行政部門内政ノ保安ヲ主トス(一)財政、實業及文政ノ各部ニ重點ヲ置ク上海周邊ニ特種施設ヲ行ヒ中支經濟發展ノ基礎ヲ確立ス
- 五 省政府以下ノ指導ハ出來ル限リ邦人願問ニ依ル干與ヲ排シ上位政治機構ヨリスル指導ノ流通ヲ容易ナラシム
- 六 速カニ皇軍占領地域ニ戰區ニ於ケル安民就業ノ實現ヲ圖ル速カニ財政ノ基礎ヲ確立シ金融機關ヲ整備シ中支ニ於ケル日支經濟提携具顯ヲ期ス其ノ處理要領別冊要綱ノ如シ

0072

- 七、軍備ハ治安維持ノ爲メ最少ノ兵力ヲ整備シ日本軍ノ指導ノ下ニ速ニ治安回復ヲ圖ルヲ主旨トス但シ海空軍ハ舉テ日本ノ國防計
- 八、全域ヲ通シ行政系統ニ屬スル保安隊ノ組織ヲ強化ス、爲之若干
- 九、優良官吏ノ養成、文化工作促進ノ爲メニ各種學校ノ設立、
- 一〇、政局ノ淨化促進ヲ目的トスル特種側面機關ノ設立ハ別ニ計畫ス
- 一一、局地ニ於ケル自治會ハ行政組織ノ整備ニ伴ヒ逐次撤廢ス
- 一二、當初ノ行政地域ハ差シ當リ皇軍ノ占領區域トシ逐次之ヲ擴大ス

0073

中支新政權樹立案

(政務指導方案ニ準據ス)
(昭、十三、二十、一應ノ確定案)

第一、要綱

一、新政權ノ名稱左ノ如シ

華中臨時政府

二、政府所在地左ノ如シ

臨時 上海

三、將來

南京

四、政體

別ニ定ム

五、新言政綱別冊ノ如シ

六、新政權ノ組織機構左ノ如シ (要綱)

七、新政權ハ速ニ之ヲ樹立シ之レカ發達ニ依リ有形無形ノ壓力ヲ以

テ反抗勢力ノ破潰ヲ期ス

爲之皇軍ノ駐防地ニ逐次發生スル地方自治會ヲ強化シ日本ヲ背

景トスル新政權ノ擁立ヲ企圖スルノ空氣ヲ發生セシメ又上海ヲ

中心トスル地域ニ經濟ノ更生ヲ速カニ實現シ以テ新行政機構ノ

確立ヲ期ス

八、新政權樹立當初ニ於ケル一般經費中相當額ハ日本側ヨリ援助ス

九 難民ノ救済、産業復興ノ爲メ速カニ應急對策ヲ講シ特ニ農産出
廻リヲ圓滑ニスルト共ニ春耕ノ着手ニ不安ナカラシム
爲之地方ノ治安維持ハ新政府機關ノ現地確立迄日本軍ニヨリ可
及的完成ヲ期ス

十 新行政機構確立ノ順位左ノ如シ

1 中央政府機構

2 上海特別市政府機構

3 省政府機構

4 縣以下自治機關ノ組織

十一 右1、2ト併行シテ上海特有ノ青、紅幫等ノ勢力回收ヲ企圖
シ新行政權ヲ直接、間接ニ後援ヤシム

十二 地方行政區劃ヲ舊重舊區劃ヲ尊重ス

十三 租界ニ於テハ新政權ノ強化ニ順ヒ漸次我方ノ勢力ヲ扶植ス已
ニ陸海軍ノ掌握下ニアル舊政府機關等ハ新政權樹立後適時該政

權ニ移管スルト共ニ未解決事項ヲ速カニ處理ヤシム

十四 大道市政府、市民協會等上海市新生機關ハ新上海市政府ノ機
構内ニ統合ス

十五 省以下ノ純行政機構ハ概ネ舊制ニ依ルモ學制竝ニ教育ノ内容
ニハ一大刷新ヲ加フル如ク別ニ計劃ス

4